

# 地鳴り

発行・1978年5月

第12号 30円 (1)

## 三里塚空港絶対粉砕

### 管制塔陥落。赤ヘル戦士の壮挙

#### 国家威信をかけた

##### (3・30開港)

3月30日、予定では午前9時45分、日航DC8型機で羽田を飛び立った福田が喜色満面、「成田空港」に降り立つはずであった。

福田は、首相の座について早々の77年1月17日、「成田開港」を「内政の最優先事項」と指定し、「オリンピック工事なみの突貫」大号令を発したのであった。

66年7月の「閣議決定」以降十二年間、政府自民党は、右手に棍棒をふるまわし左手に札束をもちつかせて三里塚農民を土地から追いつけてきた。「空港工事」の十二年は、農民を棍棒でぶんぶん札束で横つ面を張る歴史であった。

福田の大号令をうけて「成田開港は国家的事業」と呼号する公団・警察は、77年5月6日岩山大鉄塔開打ち破壊、5月8日東山黨氏射殺、78年2月6〜7日横堀要塞破壊、等一連の強権と他方での「暫定」輸送燃料と「概成」とやらの道路でもって、年度内3月30日の「開港」スケジュールにこぎつけたのであった。今度こそ開港出来ること日本帝国主義は、開港日を世界各國に通知し、十七度目の「正直」??をむかえようとしていた。

警察は、沖縄県を除く全都道府県から集めた機動隊一万四千人で空港防衛の配置にいた。検察庁は、六〇年安保以来のこの大「警備」体制を敷く直前の3月20日、東山氏の死因は投石、という破廉恥極まりないデタラメを発表して機動隊のガス弾水平打ちを免罪・奨励した。

### 人民の怒り、管制機具に炸裂

3月26日、管制塔を占拠した赤ヘル・コマンドは、まさに三里塚に炸裂した。管制塔を陥落させたのであった。

## 「再開港」粉砕に総力を

## さらさらに致命的打撃を

闘争十二年を込めた揮身の力でハンマーを打ち振った。

ハンマーは、土地をとられ、血を強いられ、首をしめられてきた三里塚農民の怒りのハンマーである。

うちおろされたハンマーは、ガス弾射殺された東山黨氏の無念を受けとめその遺志をつぐハンマーだった。

ハンマーは、日本帝国主義・政府自民党に対決する全ての闘争人民の意思を集約した人民の鉄槌である。

### 全労農学への敵 横堀要塞の再武装

政府・公団の三〇開港計画は、木端微塵に粉砕された。日本

3月26日、午後一時をもって空港進撃・管制塔占拠の闘いが開始された。

だが、開港日を待たずしての3月26日、開港は粉砕された。8日間闘争の初日にして勇猛果敢な赤ヘル・コマンドは、空港の天守閣・管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

### 火炎車で突入 英雄的なコマンド

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

であった。

### 連続闘争初日 政府機動隊が完敗

赤ヘル・コマンドによる管制塔占拠こそは、まさにこれら全ての闘いを前提にし、且つ、これら全てを集約する闘いであった。午後一時、マンホールから勇姿をあらわした赤ヘル・コマンドは、管制塔に直行、虚勢だけの敵を蹴散らし、わずかに二十数分で敵の天守閣・管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

### 全国全人民の力を三里塚包囲へ

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

「青年たちの心、農民の心と愛

わりねえべ。変らないどころか、神さまだよ。……そしたら、よねばあさん生きてたら、どんなに喜んだかって思っ、集会終わってらさく、よねばあさんの墓へとん

でいっただよ。よねばあさんは、死ぬまでいい目に合わなかったもんな。せせせせせせ働いて、畑も家も公団にとられちまっただよ」

### シヨックでガタ 政府、公団、警察

三里塚農民と労働者学生市民のきつなは、政府自民党や共共、マスコミの願望に反して、3・26開港を機具もろとも、管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

### 始まった敵の大逆襲・再開港

管制塔を陥落させたのであった。管制塔を陥落させたのであった。

政府自民党は、3・26完敗―3

30崩壊の大シヨックで一時は放心に似た状態に陥った。福田が「眠れない」と訴え「無念残念」をくり返す中で、運輸省・公団と警察が、赤ヘルの攻撃に逃げ惑った

時の互の姿をマスコミにもらした。しかも、この「目クソ、鼻クソ」をなじるのたぐいに外務省筋までもが加わった。例えば、外務省多数の意見といわんばかりに阿部頭一外務省職員は、商業週刊誌「週刊現代」(4/6号)にナリ

タは「利権争いの末生まれた空港であり、国民無視の国策から生まれたものだ。我々外務省が受けるメリットなんてまったくない。外務省無視、外交ぬきの国際空港なんてあるもんか。国策じゃなく暗策だ」と言っている。

実際、3・26翌日、英の商業新聞、ザ・ガーディアン紙が、「世界で最も血ぬられた空港の使用開始を見届けた」というのは、福田内閣の閣僚ぐらゐなものだろう」と報道したのは、3・26まえからよくつぶっていた支配階級内での「ナリタ不評」をも知っての性を出したのだ。

だが、政府自民党が(5月20日再開港)決定に八日間も要した原因は、かかる内部闘争にあつたのではない。彼らは、「過激派の徹底的取締りによる再開港」との方針で一致を見たのはあつたが、果してどのように「取締り」をすれば再開港ができるのやら目途がたらず、4月4日の各国再通知期限をむかえて日程決定を先行させたというわけだ。

しかし、政府自民党は、日取りの決定を機に再び全力で再開港への準備を開始した。彼らの準備内容は、単純明快、反対闘争対策の煮詰めと煮詰めをまたがずしての、現におもいついての対策の即刻実施である。防衛施設の強化、機動隊の訓練強化と大量動員体制、遮二無二の事前強行体制、等々敵は、5・20にむけてまさに全力

三里塚空港は、海外侵略の出撃点

それでは、政府自民党の弱さはどこにあるか。それは、なによりも三里塚空港の本質そのものにある。三里塚空港は、侵略と抑圧の空港である。それは、日本ブルジョアが国外に帝国主義活動に出てゆくための出撃点なのだ。三里

(二面最上段へ)

